

～自助・共助・公助で災害に強いまち北九州市を築く～



北九州市消防局長 石松 秀喜

九州の最北部、本州との接点に位置する北九州市は、昭和38年に旧5市が対等合併し、九州初の政令指定都市として発足いたしました。以降、工業都市として培ってきた経験・技術を活かし、世界に誇れる環境保護や先端的なものづくり技術などを国内外に発進しております。

最近では、環境技術の導入などで交流を進めてきた、ベトナム・ハイフォン市と姉妹都市協定を締結するなど「人と文化を育み、世界につながる、環境と技術のまち」を目標に掲げ、まちづくりを支える人材の育成や地域経済の活性化に取り組んでおります。

去る昨年2月、当市は市制50周年を迎え、市内各地でさまざまな記念イベントが開催され、当局といたしましても「第65回全国消防長会総会」や「住宅防火防災推進シンポジウム」そして「第22回全国救急隊員シンポジウム」を開催するなど、全国の消防関係者の皆さまに多大なご協力とご支援をいただき、それらを成功裏に終えることができました。ここに厚くお礼申し上げます。

さて、当市では、今年7月1日に「安全・安心を実感できるまち」を実現し、それらが次の世代に引き継がれることを目的として「北九州市安全・安心条例」を施行いたしました。全ての市民が安全・安心でいつまでも元気で自分らしく暮らせるよう、市民と一体となって事業を推進しているところです。

当局といたしましても、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害に備え、今年2月、市内の中心市街地を管轄する小倉北消防署を移転・新築するとともに、消防施設の耐震化や消防艇の更新、消防救急無線のデジタル化と消防指令システムの一体的整備などの事業を着々と進めております。

また、少年期から「命の大切さ」や「共に助け合う精神」を身につけるため、小学校、中学校、高等学校と段階的に応急手当の講習を実施する「スクール救命士」事業や防火・防災のプロである消防職員が、ゲストティーチャーとして小学校に出向き授業を行う「消防士さんといっしょ」事業など、生涯を通じた防災・救急教育に取り組んでおります。

今後も、安全で安心して暮らせるまちをつくるため、市民一人ひとりの防災力を高め（自助）、地域で助け合い（共助）、それを支える（公助）環境を整備してまいります。

最後に、市民の生命と財産を守るという使命のもと、全国の消防機関の皆様をはじめ、国、県、防災関係機関等と更に連携を強化し「災害に強いまち」を目指していく所存です。



今年2月に移転・新築した小倉北消防署



スクール救命士（講習風景）